

令和2年度 事業計画書

学校法人 学習院

はじめに

学校法人学習院は、平成 29（2017）年度から令和 3（2021）年度の 5 か年を実施期間とする中期計画として『学習院未来計画 2021』を策定し、全体目標として、

- I 学習院の歴史と時代の要請を踏まえた教育改革
- II 学習院の総合力を発揮するための学校間連携の強化
- III 教育の質をたゆみなく向上させるための環境整備

の 3 つを掲げ、その下に院内各学校と法人本部等がそれぞれの目標を定めました。

令和 2 年度は『学習院未来計画 2021』の 5 年計画の 4 年目となります。事業計画書は『学習院未来計画 2021』との連動性を踏まえ、院内各学校と法人本部等がそれぞれ中期計画の目標の達成を視野に入れて、令和 2 年度に取り組む内容を取りまとめたものとなっています。

昨年、新たな時代「令和」が始まり、本年 7 月に東京オリンピックが、8 月にはパラリンピックが開催されます。一方で、令和元年に我が国の広い範囲で重大な浸水被害をもたらした台風の到来や暑熱など地球温暖化の脅威等にも備えなければなりません。このように、社会を取り巻く状況が著しく変化する中で、学習院の各学校は、一貫教育の強みを発揮しながら「勢いのある学習院」としてますます発展するために、それぞれの取組みを着実に進め、『学習院未来計画 2021』の目標達成に向け、各計画の実現に向けて全力を注いでいきます。

令和 2 年度事業計画書の主なポイントは、次のとおりです。

大学、女子大学では、高度でかつ特色ある教育研究や国際交流、地域貢献、産学官連携等を推進します。また、本年 4 月からスタートする「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用を図るとともに、大学においては、令和 3 年度入学者選抜から始まる「大学入学共通テスト」への準備を着実に進めていきます。

高等科、中等科、女子中・高等科、初等科、幼稚園では、それぞれの特色を生かしたカリキュラムによる教育・保育を実施します。平成 30 年度に改訂された幼稚園教育要領や、今後段階的に実施される初等中等教育の学習指導要領に的確に対応していきます。また、協定校との交流などの国際交流を引き続き実施するとともに、初等科においては、新たに英国チェルトナム・カレッジ・プレパラトリー・スクールの授業に参加する「児童海外研修」を開始します。

なお、今年（令和 2 年）に入り、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が世界的な脅威となっていることを受け、学習院においても、政府の動向を注視しながら、対策本部を立ち上げ、休校や卒業式等の各行事の中止・縮小など様々な対策を講じています。令和 2 年度に計画をしている事業につきましても、残念ながら取り止めの方向で調整しているものもありますが、学生、生徒、児童、園児、教職員の安全を第一に対応してまいりたいと考えております。

こうした中においても、学校法人学習院は、令和 9（2027）年の創立 150 周年に向けて、令和 2 年度も着実に前進してまいりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

1. ファカルティ・ディベロップメント (FD)、スタッフ・ディベロップメント (SD)の推進

【学習院未来計画 2021】 1. 教育支援の充実

【学習院未来計画 2021】 11. スタッフ・ディベロップメント (SD)の推進

FD 推進委員会では、「学生による授業評価アンケート」を実施し、IR オフィスと連携して同アンケート結果を活用した FD¹ 活動を企画・実行し、授業改善を図ります。加えて、例年同様、アンケートの報告書をホームページで公開します。

また、学長室経営企画課では、本学独自の SD² 活動に加え、六大学合同 FD・SD 研修会³におけるワークショップ等による意見交換を行い、教職員の資質向上を図ります。

2. ラーニング・サポート体制の充実

【学習院未来計画 2021】 1. 教育支援の充実

ラーニング・サポートセンターでは、ノートの取り方、レポートの書き方など 6 つのセミナーを開催するとともに、学習の個別相談を行うなど、学生のニーズに即したサポートを充実させ、新たな企画を織り込みながら利用学生数の増加も図ります。

学生支援の直接的な窓口であるラーニング・サポートセンターの安定的な運営を図るため、体制の整備等を図ります。

3. 総合基礎科目見直しの検討

【学習院未来計画 2021】 2. 語学教育を含む教養教育の見直し・再編

令和 3 年度導入を目途に、英語カリキュラムの改編を行います。具体的には、「25 名以下の少人数クラスの編成」「1・2 年次で習熟度別クラス編成」「4 年間継続した英語学習が可能となるカリキュラムの構築」とします。この改編に向けて、外国語教育研究センターの体制整備を図ります。

あわせて、情報科目の見直しについては、計算機センターを中心に検討を進めます。

4. 入学者選抜制度の改革等

【学習院未来計画 2021】 3. 入試改革

受験生の利便性を高め、全国から多様な入学者受入れを目指して、令和 3 年度入学者選抜において「大学入学共通テスト」⁴のみの成績で受験可能な方式を新たに導入します。

「大学入学共通テスト」の確実な実施に向け、また、学校推薦型選抜（指定校・公募制）等、実施方法の一部変更を予定している他の入学者選抜に向けても、万全な準備体制を整えます。

¹ ファカルティ・ディベロップメント 大学の授業改革のための組織的な取組み。

² スタッフ・ディベロップメント 事務職員や技術職員など職員（教員を含む）を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組み。

³ 甲南大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、学習院女子大学と合同で開催する研修会。

⁴ 独立行政法人大学入試センターによって行われる大学入試センター試験に代わり、令和 2 年度より導入される大学の共通入学試験。

5. 世界展開力の強化

【学習院未来計画 2021】4. 国際化の一層の推進

国際センターでは、春季・夏季休暇を利用した短期研修制度であるグローバル・キャンパス・アジア（上海・台湾・韓国）、グローバル・キャンパス・ヨーロッパ（フランス・ドイツ）の他、フランス・アルザス欧州日本学研究所にあるリエゾンオフィスを活用した短期派遣プログラム等を実施します。

また、北米での新規協定校開発に向け、北米を中心とした日本語学科のない大学の学生に対し、オンラインによる日本語教育を行い、本学の日本語能力基準を満たした学生を受け入れる新たなプログラムを試験的に実施します。

なお、令和 2 年度からは、新たに北米の大学への留学促進事業等を実施し、北米への留学の支援を強化します。

さらに、学生の留学や短期研修のための奨学金等の支援事業を充実させるとともに、「協定留学経験者による報告会」など学生が気軽に話を聞き相談できる場である「留学フェア」、海外からの留学生が日本の文化を体験する「日本文化体験週間」を通じた本学学生との交流等のイベントを開催します。

6. キャリア教育と就職活動支援の連携

【学習院未来計画 2021】5. 学生生活支援の充実

キャリア教育については、全学部横断の基礎教養科目として「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を開講します。「大学生活の経験をいかにキャリアに結びつけるか」から「中長期的にキャリア構築する力をつける」まで段階的に展開していきます。

就職活動は、社会の事象と関わりが深いことから、キャリアセンターでは、タイムリーに情報を収集し、学生や社会のニーズに応えられるよう、体系的に就職支援プログラムを企画します。キャリア・就職の個別相談の日常的な支援から、就職活動のみの講座ではなく、社会人になるにあたって、様々な角度から必要と思われる講座を複数開催するほか、保護者向けのガイダンスの開催などきめ細かいサポートを実施します。

また、桜友会⁵の協力のもとに実施される海外インターンシップ研修については、更なる研修内容の充実を目指します。

7. 奨学金の拡充と検証

【学習院未来計画 2021】5. 学生生活支援の充実

令和 2 年 4 月からスタートする「高等教育の修学支援新制度」⁶による授業料等減免の対象校として認定されたことを受け、円滑な制度運用を図ります。

また、一都三県以外の受験生を対象とした入学前予約型給付奨学金の「目白の杜奨学金」「学習院桜友会ふるさと給付奨学金」等により、経済的支援が必要な優秀学生を支援します。

⁵ 学習院同窓会

⁶ 「大学等における修学の支援に関する法律」に基づき、少子化に対処するため、低所得世帯であっても社会で自立し活躍できる人材を育成する大学等において修学できるよう高等教育の修学支援（授業料減免・給付型奨学金）を令和 2 年度より実施。

8. 教学マネジメントの確立と IR 機能の充実

【学習院未来計画 2021】6. 教学マネジメントの強化

全学的な組織である内部質保証委員会において、学修成果の可視化など教育課程及びその内容、方法の改善・向上を図り、教学マネジメントの確立に向けた方策を実施します。

IR⁷オフィスでは、「在学生調査」、「卒業生調査」及び「新入生アンケート」を実施し、学生の振り返りや改革改善に資するデータを整備するとともに、分析結果をホームページで公表します。そのほか、他部門との連携や IR ニーズの汲上げを強化するとともに、データ可視化ツールを導入し、全学的な数字データの共有やエビデンスベースの議論を促進します。

また、一部の学科における 1 年間に履修登録できる単位数の上限設定や、博士前期課程及び博士後期課程における定員管理について、引き続き改善に向けて取り組んでいきます*。

9. 事務組織の見直し

【学習院未来計画 2021】6. 教学マネジメントの強化

教育研究の高度化・複雑化や業務の多様化等に対応するため、事務組織の業務の検証を行い、必要に応じて業務の見直しや各部署間の業務移管、事務組織の再編成を検討し、法人との協議を引き続き進めます。特に令和 2 年度において、新たな事業である「教育開発」は、当該事業の具体的内容を学生センターを中心に、また研究支援組織体制の見直しは、研究支援センターを中心にそれぞれ継続して検討を進めます。

10. 「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ～」の推進

【学習院未来計画 2021】7. 研究活動の活性化

「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ～」は、5 年計画の最終年度を迎え、これまでの研究の成果を踏まえ、生命科学分野については、ビジビリティ（可視性）の高い基礎研究を継続的に推進します。また、公開講演会で一般の方との意見交換も行うなど研究成果の社会への還元を行います。

11. 地域連携の拡充

【学習院未来計画 2021】8. 地域連携の拡充

豊島区とは、「としまコミュニティ大学」への科目の提供、豊島区在住の外国人を対象とした「日本語教室」の開催をはじめ、国際アート・カルチャー都市構想の取組みに対して協力していきます。

目白キャンパスで実施される豊島区立目白小学校 1 年生の生活科の授業に対して、文学部教育学科の生活科教育法の授業の一環として、小学校教員志望の学生と一緒に活動を行う連携授業を実施します。

また、豊島区の子どもたちが馬と触れ合う機会（ホースセラピー）を設けたり、豊島区

文中※は、大学の認証評価の結果を踏まえた取組みである。

⁷ Institutional Research の略。大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

立千登世橋中学校の生徒の職業体験を受け入れたりするなど、「社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、地域連携を推進していきます。

12. 産学官連携の推進

【学習院未来計画 2021】 9. 産学官連携の拡充

学長室研究支援センターが中心となって、URA⁸ による研究成果・研究シーズに関する情報発信や、知的財産の活用推進等の活動を進めています。

令和2年度にURAを増員することにより、研究支援業務の更なる強化を図ります。

外部資金獲得等による研究成果の創出から、研究成果と企業を結ぶ共同研究の実施、及び共同研究成果の実用化まで、一連の連携活動を推進します。

また、文系の事例も含めて本学の多様な研究成果を活用し、講演会開催や学外機関等への専門指導のような広義の産学官連携（社会連携）活動に繋げることも推進します。

13. 学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化

【学習院未来計画 2021】 10. 高大接続改革の推進

高等科・女子高等科とは、高大接続にかかる諸課題について、共通の認識のうえに継続的に意見交換を行っていきます。

出張講義や授業聴講、科目等履修生制度等による両高等科との連携強化を図るとともに、協定締結校との合同研修会の開催等に努め、協定を締結している東京都立戸山高等学校、私立順天高等学校、愛媛県立松山東高等学校との連携を強化します。

14. 中長期計画の策定

中長期計画策定作業部会における骨子案最終報告を踏まえ、基本計画策定委員会を中心として、将来を見据えた大学等の中長期計画の検討を継続します。なお、法人と協議を進め、大学の組織・財務基盤を踏まえた自律的活動を担保しうる内容となるよう努めます。

女子大学

1. リベラルアーツ教育を中心とした「教育力」の更なる充実

【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

本学では、1、2年生の間に多様な分野を履修した後、3年生から専門性を深めていく教育システムを採用しています。一般に「リベラルアーツ」教育と称されるこのような方式を更に充実させることを目指して、令和2年度は複数の取組みを並行的に進めます。

本学ならではのリベラルアーツ教育のあり方について深い検討を行うため、シンポジウム、講演会を開催するとともに、その成果を学内外で共有します。

また、このように理念を明確化する取組みに加えて、リベラルアーツ教育の学修成果を

⁸ University Research Administrator の略。大学等において、研究者とともに、研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。

可視化するための方法論を確立します[※]。

更に、リベラルアーツ教育の学際性を具現化する取組みとして、平成 30 年度に本学専任教員 12 名で作成した現代日本に関する英語によるテキスト「Kaleidoscopic Views of Japan」を活用したオムニバス形式の英語講義を令和 2 年度に開設するとともに、ジェンダーに関する分野横断型の講義も開設します。

加えて、本学リベラルアーツ教育の一環として位置づけられる日本文化学科、国際コミュニケーション学科における「コース登録制度」⁹が令和 2 年度に 3 年生になる学生から適用されることを踏まえて、同制度の不断の検証、改善のプロセスを開始します。また、教職課程においては、大学が独自に設定する科目として新宿区立西早稲田中学校における「学校インターンシップ」を開講します。

2. 内部質保証システムの強化に向けた外部評価制度の導入

【学習院未来計画 2021】1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

平成 29 年に開始した新たな内部質保証システムのもとで、平成 31 年 3 月に大学基準協会の認証評価¹⁰において、「大学基準に適合していると認定する」と評価されました。

同システムを一層堅牢なものにするために、その適切性を確認することを目的として、令和 3 年度後半に外部評価を実施すること及びその方法を令和元年度に機関決定しました。これを踏まえて、令和 2 年度には、外部評価の実施に向けた委員の選定等の具体的な準備を開始します。また、教職課程については、独自の自己点検・評価を実施する必要があり、その実施計画を令和 2 年度中に確定させます。

3. 単位の実質化のための取組みの強化

【学習院未来計画 2021】1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化

リベラルアーツ教育の観点から多様な科目に学生が「出会う」機会を提供するために、令和元年度より 1 セメスターに履修できる単位の上限を緩和しました。学生が各科目について十分な時間を教室外の自習に充当することを本緩和措置が阻害しないように、「単位の实質化」の早期の実現に向けた制度化を図っていきます[※]。

4. 留学生の送出しと受入れの一層の強化

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

留学生の送出しと受入れは、本学の国際化戦略上「車の両輪」であり、国際化中期計画の下でそれぞれ拡充を図っていきます。

送出しの取組みとしては、留学希望者に対する留学制度や英語外部試験の受験助成制度について、早期の情報提供を徹底します。また、協定大学が提供する語学プログラムの本学での単位認定を可能とすることにより、留学のきっかけを提供することの是非について

文中※は、女子大学の認証評価の結果を踏まえた取組みである。

⁹ 1～2 年生は、幅広い学問分野に関する基礎的な科目を履修し、研究方法、語学力等を養い、それを踏まえ 3 年生からは学生が自ら見出した学問的関心に応じた専門領域としての「コース」を選択し、その分野の専門性に沿った学びを進める。

¹⁰ 学校教育法により、大学は文部科学大臣の認証を受けた評価機関による認証を 7 年以内に受けることが義務付けられている。

検討を行います。さらに、英国における協定校を拡充することについての具体的検討を進めます。

受入れの取組みとしては、「Kaleidoscopic Views of Japan」を使用する英語講義の留学生への開放を図るとともに、日本語授業の拡充の検討により、日本語能力が十分ではないが、本学への留学意欲の強い受入れ学生への対応を強化します。また、令和元年度に新設した受入れ留学生向けの戦略的な奨学金制度の協定大学への周知に努めます。

5. 海外に触れる機会の拡充

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

長期の留学に加えて、学生が海外に触れる機会を更に充実させます。

短期海外研修制度については、語学研修について英語（豪州、カナダ、英国の3か国）及び韓国語（韓国）の総合的なバランスを検討し、持続的な制度の下で学生に多様な機会を提供する方策を構築します。途上国や国際機関を訪問する本学ならではの特徴を有する研修についても、持続性を確立するための方策を検討します。

キャンパスで海外を経験することを可能とするカナダ・レスブリッジ大学との同時授業については、令和2年度は試験的に本学担当教員を4名配置することで、講義内容の多様化を図ります。また、国際機関（OECD）の職員から Skype¹¹ により受講する形式を含む講義を引き続き実施するとともに、その他の国際機関との実現可能性を検討します。

6. エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化

【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

令和元年度より日本文化学科、国際コミュニケーション学科3年生を対象に開始した TOEIC® OLP¹² プログラムについて、英語コミュニケーション学科1年生も対象にします。令和元年度の実施実績を詳細に分析することにより、今後の活用方法について検討を行います。

7. 高大連携と入試改革

【学習院未来計画 2021】3. 高大接続改革に伴う入試改革

本学の国語、英語の一般入試問題についてはすでに長年にわたり記述問題やライティング問題を出題しています。高大接続改革で主要な論点となった事項に対して、本学独自問題で適切に対応することが可能と判断したことから、令和3年度入試改革について、一般入試に共通テストや英語外部試験を採用せず、本学独自の入試を継続することとします。一方で、一般入試B方式において2教科（国語と英語）のみとなっていること、一般入試A方式において選択科目が世界史又は日本史のみとなっていること、本学リベラルアーツ教育の趣旨に照らしての適切性については引き続き検討を行います。

高大接続の観点からは、令和元年度から開始した高大連携セミナーを令和2年度も実施し、高校教員と本学教職員が高大連携の意義や必要性についての共通理解の構築を図りま

¹¹ マイクロソフトが提供するインターネット電話サービス。

¹² TOEIC® Official Learning and Preparation Course TOEIC テストを作成・監修している ETS が公認する世界で唯一のオンライン学習システム。

す。また、平成 29 年度から開始した、一つのテーマを複数の専門分野の視点により解釈することによりリベラルアーツ教育の意義を伝えることを目的とする本学独自の「総合型出張授業」を積極的に提供していきます。さらに、本学のリベラルアーツ教育と親和性の高い高校との連携を図っていきます。

8. 戦略・IR 機能の強化

【学習院未来計画 2021】4. 企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント (SD) の推進
教育研究活動を戦略的に強化するために、事務部門を強化します[※]。具体的には戦略及び IR 担当者を配置し、教育研究に関してエビデンスベースの改革を支援します。

9. 研究教育環境の向上

【学習院未来計画 2021】5. 研究・教育環境の向上

令和 2 年度には 1 号館が新築され、3 つの学科事務室、大学院生研究室及び約半数の教員の研究室が移転します。1 号館は 3 学科事務室を一体化することにより学生の利便性を大きく向上させるとともに、教員の研究環境の改善にも資するものです。更に、令和 4 年 3 月に完了予定の 4 号館耐震改修工事にあわせて新たに設置される収蔵庫や展示室などの詳細について、令和 2 年度中に確定させます。

学生に対する教育支援の観点からは、講義形式の各種補講の実施等、ラーニングサポートルームの更なる活用を検討します。また、図書館のオンラインチュートリアル機能拡充やラーニングコモンズ空間¹³の環境整備等を進めます。さらに、本学卒業生に対するアンケート調査を実施し、それを在校生支援等にフィードバックします。

研究活動支援については、既の実施している特別研究費の申請と科学研究費補助金申請を関連付ける方策等に加えて、科学研究費補助金獲得のためのより直接的な支援策を検討します。

10. ジェンダーに係る共通理解の醸成

【学習院未来計画 2021】5. 研究・教育環境の向上

ジェンダーに関する様々な課題を適切に理解し、それに基づいた行動をとることは、多様性を包摂する社会の中で、人が生涯を通じて豊かな時間を送るために重要な事項であり、学生がそのような理解をもつことができるような環境を整備することは、女子大学としての本学にとって極めて重要な課題です。そのため、ジェンダーに係る課題の共通理解醸成のための取組みをより体系的なものにするために、講演会などを開催します。

11. 外部に開かれた文化活動の充実

【学習院未来計画 2021】6. 外部に開かれた文化活動の充実

令和 4 年 3 月に完了予定の 4 号館耐震改修工事後に設置される展示室について、外部に開かれた文化活動の一環として捉えて、その詳細について令和 2 年度中に確定させます。

また、文化交流ギャラリーでの展示、学内での多様な講演会、英国劇団公演など学外に開

¹³ 図書館などに設けられる、総合的な自習学習のための環境。IT 機器や学習スペースなどを備え、書籍の閲覧だけでなく、グループ学習や討論会など様々な学習形態の活用に対応する。

放している企画を引き続き積極的に実施します。

また、教員の社会貢献、地域連携活動について網羅的に情報を収集し、それを公開することにより、それらの活動をより活性化させます。既に包括連携協定を締結している新宿区以外の地域との将来的な連携の可能性を模索するために試行的な連携を継続します。

高等科・中等科

1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討

【学習院未来計画 2021】1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

新たな学習指導要領¹⁴に対応するため、各教科ごとの検討を進め、「中等科・高等科教科課程」を改訂します。

英語教育については、英語能力試験（GTEC）の受験機会の確保や、高等科を対象に導入したAIによる音声・画像認識技術を利用した英語のスピーキングに加え、令和2年度よりライティングの評価・採点システムを導入し、英語の話す力と書く力の更なる向上を目指します。

また、高等科に令和元年度に設置した電算機委員会において、ICT環境の整備について検討を進めます。

さらに、令和3年度からホームルームへICT機器を配置し、それらを活用した授業を展開するための準備を進めます。

2. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】2. 院内各校との連携強化

大学・女子高等科とは、高大接続にかかる諸課題について、共通の認識のうえに継続的に意見交換を行うとともに、大学とは、出張講義・授業聴講、大学・女子大学とは科目等履修生制度など、多様な連携を図っていきます。また、大学理学部の様々な分野の研究室体験、大学史料館による博物館教育など多様な連携を推進します。

また、初等科・幼稚園への異文化体験の機会としての留学生あるいは留学経験者による訪問を継続します。さらに、協定校である米国セントポール校より来校した教員が初等科を訪問します。

教員間の連携については、学習院としての一貫した教育内容や教育方法の確立を目指し、教科連絡会などにおいて意見交換、情報交換を行います。

3. 教職員の連携と協力体制の構築、業務の負担軽減

【学習院未来計画 2021】3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討

教育の質の向上と業務負担軽減に向け、適正な授業コマ数と教員配置、勤務体系の整備や教員間、関係部署との協力体制を検討します。部活動指導への外部人材の活用について

¹⁴ 文部科学省が告示する初等教育及び中等教育における教育課程の基準。2017年3月に改訂され、小学校は2020年度、中学校は2021年、高等学校は2022年度から全面实施。

は、五学園¹⁵での意見交換や東京私立中学高等学校協会第3支部の情報収集を進めます。

また、生徒や保護者の心のケアを図るため、関係部署と相談しながら、カウンセリング機会の充実についての検討を進めます。

4. 国際化の一層の推進

【学習院未来計画 2021】4. 国際化の一層の推進

高等科からは毎年20名前後の生徒が長期留学しており、引き続き、生徒への留学情報の提供や事例紹介等を行っていきます。

現在、高等科として参加している米国（ハワイ）プナハウスクールでのSGLIプログラムについて、中学生を対象としたプログラムへ中等科2年生が新たに参加します。

更に、中等科も含め、生徒の研修や留学のみならず、米国セントポール校（協定校）やニュージーランドキングズカレッジ校との教員交換事業を行い、両校との交流をより充実したものにしていきます。

帰国子弟入試で優秀な人材を確保するために、外部の入試・進学説明会などの機会を生かした国際広報を実施します。

5. 施設の拡充

第一体育館、第二体育館について、夏季の熱中症への対応も考慮し、冷房装置の早期の整備に向け、令和元年度に第二体育館を整備したのに続き、令和2年度は第一体育館を計画的に整備します。

女子中・高等科

1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討

【学習院未来計画 2021】1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

新たな学習指導要領の実施に向け、委員会においてカリキュラムの検討を進めます。

整備されたWi-Fi環境を活用し、iPadを教室でさらに効果的に利用できるよう周辺機器の整備を進め、音声だけでなく視覚的にも幅広く対応した授業展開を可能とします。また、デジタル教材を活用し、生徒主体の授業運営をさらに推進します。

2. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】2. 院内各校との連携強化

大学・高等科とは、高大接続にかかる諸課題について、共通の認識のうえに継続的に意見交換を行うとともに、大学・女子大学とは、出張講義・授業聴講・科目等履修生制度など、引き続き多様な連携を図っていきます。

また、初等科・幼稚園への異文化体験の機会としての留学生あるいは留学経験者による訪問を継続します。

¹⁵ 甲南学園、成蹊学園、成城学園、根津育英会武蔵学園、学習院。

教員間の連携については、学習院としての一貫した教育内容や教育方法の確立を目指し、教科連絡会などにおいて意見交換、情報交換を行います。

3. 教員の授業コマ数の検討

【学習院未来計画 2021】 3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討

令和元年度に導入した校務支援システムの活用を図り、更に教育の質の向上と業務の効率化及び負担軽減を推進します。

4. 広報体制の一層の強化

【学習院未来計画 2021】 4. 広報体制の一層の強化

都内私立女子中学校 9 校による合同説明会「女子校アンサンブル」や受験生向けオープンスクール、保護者向け学校説明会などの入試広報機会の充実を図ります。

5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

【学習院未来計画 2021】 5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

カウンセラーによる生徒や父母保証人との面談の機会を確保し、フィジカル・メンタルの両面から手厚くケアします。また、カウンセリング体制を整備し、より相談しやすい環境の整備に努めます。

カフェテリアの設置については、学内の委員会において、より生徒のニーズに沿うよう検討を進めます。

6. キャンパスの環境整備

戸山キャンパスの緑地化について、校舎や施設との調和を考えながら、引き続き整備を進めます。また、校舎内も落ち着いた空間を提供することに努め、理想的な学習環境を整備します。

初 等 科

1. 新たな学習指導要領の円滑な実施

【学習院未来計画 2021】 1. 学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂

令和 2 年度から実施される新たな学習指導要領について、週 5 日制を維持しつつ、日本の歴史や伝統文化を大切にする教育を重視する中で、国語教育、理数教育、外国語教育、情報教育等における従来からの取組みを充実させ、さらに知識の理解の質を高め、確かな学力を育成します。

2. 国際化の一層の推進

【学習院未来計画 2021】 2. 国際化の一層の推進

国際社会で活躍できる人を育成するために、創造力や論理力、コミュニケーション能力を養うという視点から、授業改善を進めていきます。

英語教育については、3年生以上の全ての学年で1クラスを2分割し、3・4年生では「聞くこと」「話すこと」など音声訓練を中心に、5・6年生では「読むこと」「書くこと」を加え、会話を作り発表するなど、発展的に英語を活用していくことを大切にします。

また、毎年高等科、女子高等科から留学生の訪問を受け入れ、一緒に遊んだり授業で共に活動したりするなどの交流を通して、身近に世界を感じることでできる貴重な機会とします。

令和元年度は、豪州のメソヂスト・レディース・カレッジ・ジュニア・スクールの児童17名を2日間受け入れて、全学年全てのクラスと一緒に授業をする体験をしました。これをきっかけに、テレビ電話や手紙による交流も続けています。

令和2年度からは、6年生の児童約20名が英国チェルトナム・カレッジ・プレパラトリー・スクールの授業に参加する「児童海外研修」を新たに開始します。生活や文化について体験的に理解を深め、日本と外国の共通点や違いに気付くことで、国際的な視野を広げます。

3. 授業への ICT 機器導入の検討

【学習院未来計画 2021】3. 授業への ICT 機器導入の検討

情報の授業では、プログラミング教育をはじめとして、教科や校外教育、他の総合的学習などの活動と結び付け、コンピュータを利用した総合的な活動を図るとともに、情報モラルを含めたコンピュータネットワークに関する正しい認識を持たせることを目指します。

また、電子黒板等を使用し、デジタル教材を利用した児童参加型の教育を進めるとともに、タブレット端末等の IT 機器を購入し、教員や児童が試験的に活用を始めるなど情報教育基盤の形成を図ります。

4. 学年主管設置の準備

【学習院未来計画 2021】4. クラス主管に加えての学年主管の設置

児童のきめ細やかな指導を目的とした学年主管の設置の前段階として、複数学年を担当して教育指導をする教員を配置し、教育指導体制を整えていきます。

臨時特別教諭制度も活用し、一時的な休業者の代替をして教育活動の連続性を保ちます。

また、スクールカウンセラーについては、週2日の勤務体制を維持し、児童や父母、教員のカウンセリング機会の充実を図ります。

5. 院内各校との連携強化

【学習院未来計画 2021】5. 院内各校との連携強化

大学理学部による「理科」実験体験や、連携事業として女子大学による初等科生と保護者を対象とした環境教育・食育をテーマに、教員の指導のもと学生自ら企画・運営・実施する「エコサイエンス教室」などを継続的に実施します。また、女子大学が開講する初等科5年生以上を対象にした「英語力養成コース」や「霞会館イングリッシュ・セミナー」への参加で、英語に楽しみながら触れる機会の充実を図ります。

中等科、女子中等科長が初等科父母へ話をしたり、中等科、女子中等科教頭が初等科児

童に話をしたりする機会を継続します。更に、幼稚園父母に対し初等科長が話をする機会を増やし、一貫教育の充実を図ります。

教員間においても、教科連絡会、各科間連絡会を通じて情報共有、意見交換を積極的に行っていきます。

幼稚園

1. 従来の取組みを活かした形での新教育要領への対応

【学習院未来計画 2021】1. 教育要領改訂を見据えた保育内容の充実

「正直で思いやりのある心」、「正しい生活の習慣と態度」、「自ら育とうとする力」、「社会性の基礎作り」を保育の基本とし、遊びを中心とした生活によって、健康・人間関係・環境・言葉・表現に配慮した保育内容を、さらに深くしっかり進めていきます。

2. 研究保育と園内外研修の実施

【学習院未来計画 2021】2. 研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上

日々の保育の事例をテーマとした意見交換の中で、幼児の理解を深め、教員間の情報共有と資質の向上を図る研究保育を実施します。

クラスの問題意識を明確にし、家庭を含めた幼児の理解を深めるための研修をはじめ、保育力の向上に効果的な園外研修を目的意識を持って計画的に受講し、成果を教員間で共有することにより、保育内容の充実を図ります。

3. 園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用

【学習院未来計画 2021】3. 園内の自然環境の充実

ケヤキやサクラ等の樹木や、柑橘類やブルーベリーなどの果樹、草花など、四季の移ろいを感じることでできる緑豊かな自然環境の整備充実を図ります。

保育の中に木工を日常的に取り入れ、様々な形の木片や自然物などを使って、園児が自由な発想でものを作り出す機会の充実を図るため、可動式の木工準備棚を整備します。

多様な経験の場を提供し、園児一人ひとりの可能性を引き出します。

また、目白キャンパスの恵まれた自然を活用した屋外保育も継続して実施していきます。

4. 院内各校との交流

【学習院未来計画 2021】4. 院内各校との連携強化

初等科とは、運動会等の行事の参加・見学、合同主催の父母講座など、一貫教育校ならではの取組みを継続的に実施します。高等科・女子高等科とは留学生との交流を通じた異文化体験の機会を確保します。

また、教員間においても、連絡会議を通じて、情報共有、意見交換を積極的に行っていきます。

5. 入試広報の充実

リニューアルしたホームページは、写真をたくさん使い、幼稚園の特色や生活等を紹介しています。さらに工夫し、見やすく、わかりやすいものにしていきます。また、園舎見学会や父母等を対象とした講演会を開催し、情報発信に努めます。

本 部 等

1. キャンパスプランの策定と実施

【学習院未来計画 2021】 1. キャンパスプランの策定と実施

〈第1ステージ〉

① 耐震未対応建物の対策推進について

【目白キャンパス】

令和2年4月より大学の東1号館を解体し、同地に新東1号館を新築する工事に着工します。竣工は令和4年度末を予定しています。



目白キャンパス新東1号館
完成イメージ図

【戸山キャンパス】

女子大学4号館・女子中高等科B館の耐震改修工事に向けて、実施設計を行います。工事着工は令和3年度を予定しています。なお、同耐震改修工事に伴い新築する女子大学1号館は令和元年度秋に着工しており、令和2年度夏に竣工予定です。

② 目白キャンパス・戸山キャンパス桜再生計画

目白キャンパスについては、平成29年度に正門・記念会館付近、西門付近の樹木診断・治療を実施し、大規模植替えを行いました。次の大規模植替えは令和4年度を予定しており、令和2年度は外観診断、剪定等を実施することにより景観の維持を図ります。

戸山キャンパスについては、複数年に跨る段階的な整備を計画しており、平成28年度に第一期工事として、正門から女子大学2号館に続く通路脇の植替えを行いました。令和2年度については、桜木の生育状況を確認しつつ、令和3年度に予定する第二期工事に繋げていきます。

2. 創立150周年記念事業計画の検討

(創立150周年記念事業統括部)

令和9年の創立150周年に向け、記念事業を決定するための会議体及び構成員を検討し、創立150周年までのスケジュールや創立150周年事業全体の目的ならびに全体方針を検討していきます。なお、記念事業の具体的な内容については、次期中期計画と密接に関連するため、関連各部署と連携して進めていきます。

3. 霞会館記念学習院ミュージアム建築計画の推進

(創立 150 周年記念事業統括部)

新東 1 号館への大学図書館機能移転後の現大学図書館の建物については、大学からの要望を受けて、必要となる改修を行った上で、大学史料館・大学学芸員課程事務室と学習院アーカイブズが入る学習院ミュージアムとして、令和 6 年度の開設を目指します。

学習院ミュージアムは、法人と大学が協力し、大学博物館として教育・研究機能のほかに学習院の歴史・史資料の保存・展示・広報の機能を持つことが期待されています。

4. 決裁・稟議等のルールの整理

【学習院未来計画 2021】2. 決裁・稟議等のルールの整理 (総合企画部)

平成 29 年度以降、文書の適正な処理と事務能力の向上を目指し、他校調査、各学校各部署へのヒアリング、ルール案に関する関連部署との意見交換等を進めました。一連の検討の過程で、事務手続き上の見直しでは不十分であり、決裁・稟議の根底にあるガバナンスの強化を図らなければ、抜本的な改善に至らないとのより大きな課題が浮かび上がってきました。

次期中期計画の策定に向けて、令和 2 年度はこれまで行った調査等を再検証し、ガバナンスにおける決裁・稟議の役割や位置付けを分析整理した上で、テーマ設定の見直しも含め、より建設的で適切な取組みを策定します。

5. 広報の充実

【学習院未来計画 2021】3. 広報の充実 (総合企画部)

高等科から幼稚園までのホームページを令和元年度から 3 年計画でリニューアルし、スマートフォン等でも最適な表示ができるようレスポンス化を行っていきます。各種情報へのアクセスがしやすく、学校のイメージが伝わるなど、見る人に分かりやすいホームページを制作していきます。令和元年度に公開した幼稚園のホームページの先事例を参考にしつつ、各学校ごとの特性や訴求すべき内容を整理し、順次リニューアルを進めます。

ここ数年、園舎見学会、体験型オープンスクール、クラブ見学・体験会、イブニング学校説明会など、院内各学校において、様々な形で受験生やその父母、教員、塾関係者などと接点を持つ機会を増やしました。引き続き、各コンテンツの改善・充実を進めていきます。大学では、より多様な受験生を確保するため、東京 12 大学広報連絡協議会に加盟しました。令和 2 年度より、同協議会主催の全国 7 都市(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)の合同入試相談会等の広報活動を行います。

6. 三推進(国際化、情報化、一貫教育)事業の更なる促進のための検討

(総合企画部)

学校法人学習院の各学校の教育研究機能を向上させるため、三推進事業の在り方を検討します。一貫教育については、一貫教育推進委員会に提示された各学校の意見を踏まえ、取り組むべき事業、適切かつ効果的な資源配分について、具体的な検討に入ります。また、

国際化及び情報化についても、2015年に国連が打ち出したSDGs¹⁶、科学技術基本法に基づき提唱されたSociety5.0¹⁷、それらを見据えて中央教育審議会が答申した「2040年にむけた高等教育のグランドデザイン」等を背景に、本院が目指すべき方向性を明確にし、学生生徒等及び教員の教育研究に資する事業となるよう検討を進めます。

7. 各学校の教育・研究環境の整備

(総合企画部)

近年、留学や海外研修を目指す学生生徒が増えており、海外でいつ発生するか予測のつかないテロ、暴動、感染症、異常気象等の危機に対し、十分な備えが求められます。こうした諸事情に鑑み、令和2年度より、従来よりも充実したサービスを楽しむ海外危機管理体制を敷き、学生生徒等や教職員が安全安心に海外へ出られるよう後押しします。

8. 次期中期計画の策定

(総合企画部)

学習院創立150周年(令和9年)を展望し、本院の理念・目的を実現するため、令和4年度から令和9年度までの6年間の中期事業計画の策定に着手します。策定にあたっては、世界的規模で激しく変化する社会状況を注視し、各学校と連携・協議しながら、本院が教育研究の側面から持続可能な社会の実現に貢献できる内容となるよう努めます。

9. 事務業務システムの安定運用

【学習院未来計画2021】4. 事務業務システムの更新(総務部)

令和元年10月をもって、旧システムから事務業務パッケージソフトへの完全移行が完了しました。令和2年度は、事務部門システム基盤環境(サーバ・ネットワーク機器・クライアントPC等)の5年に一度の全面リプレースを実施し、事務業務パッケージソフトの保守と併せて、システムの長期的な安定運用を期してまいります。

10. 災害発生時の地域との連携、危機管理体制の強化

【学習院未来計画2021】5. 災害対策の更なる強化(総務部)

令和元年度は、豊島区との通信訓練や帰宅困難者対策訓練等に積極的に参加し、災害時における対応についての情報交換に努めたほか、本院で実施した自衛消防総合訓練では、災害対策本部の設置からその後の対応について流れを確認し、教職員一人ひとりが防災の担い手であるという意識を持つよう、啓発活動を行いました。

令和2年度は、平成27年度に全学校に配備した教職員向け防災備蓄品の更新年度に当たるため、災害時に必要な物質を過不足なく入れ替え、空きスペースを有効活用するとともに、災害発生時に効率的に配布できる環境を整え、危機管理体制の強化に努めます。

¹⁶ Sustainable Development Goals 2015年国連において、貧困撲滅、気候変動対策、エネルギー確保など、グローバルな社会・環境課題を解決し、2030年までに持続可能な社会を実現するための17のゴールと169のターゲットを設定。

¹⁷ IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない価値を生み出すことで、これからの課題や困難を克服する。社会の変革を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重しあえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会。

11. 職員研修の更なる充実

【学習院未来計画 2021】6. 職員研修の更なる充実（人事部）

平成 30 年度から大学認証評価制度の第 3 期認証評価が開始され、数年後に控えた大学の第 3 期認証評価に向け、スタッフ・ディベロップメント (SD)の一環として、本院の教育研究の充実及び教育機関としての質保証システムの構築に寄与する人材の育成を目的とし、専任職員を公益財団法人大学基準協会へ 1 年間（4 月 1 日～翌年 3 月 31 日）研修派遣することとします。派遣期間中の同協会での業務を通じ、①広範な見識（本院を取り巻く国内外の他の国公私学の情勢を見渡せる能力）②専門的知識（認証評価に係る教学と財務における専門的知識の習得）③長期的視野（質保証システムの構築により長期的に安定した教育の提供に資する能力）④実務遂行能力（的確に物事を捉え、判断し、業務を完遂する能力）を習得させ、学校の経営や運営に能動的に取り組むことのできる職員の育成を目指します。

12. 働きやすい環境づくりの推進

【学習院未来計画 2021】7. 働きやすい環境づくりの推進（人事部）

教職員のライフスタイルの変化や多様化に応じて、性別年齢を問わずに働きやすい環境づくりを推進することを目指し、業務の繁閑に応じて労働時間の配分を行うことにより、総労働時間を短縮する変形労働時間制の検討を進めます。また、必要とされる諸制度を導入するために、引き続き法令や他校・民間企業の実例について調査・検討を進めるとともに、各種会議体等での意見交換を通じて、実現可能性のあるものから順次導入します。

13. キャンパスプラン実施に向けた財政基盤の確保

【学習院未来計画 2021】8. 学習院未来計画 2021 の計画実現のための財源確保（財務部）

キャンパスプランで計画されている新東 1 号館の工事实施年度となり、より精緻な資金計画が求められます。建築計画や見積もり等を詳細に分析し、第 2 号基本金の取崩しや借入金の活用等も念頭に置きながら、中長期的に財政の健全性と安定性を維持することができる資金計画の立案及び実行に取り組みます。

14. 各キャンパス構内の維持整備の促進

【学習院未来計画 2021】9. 各キャンパス構内の維持整備の促進（施設部）

各キャンパス構内の維持整備に必要な対策として、各建物の屋外防水工事、外壁改修工事、受変電設備工事等を中長期計画として検討し、以下のとおり実施します。

【目白キャンパス】

- 西 2 号館外壁改修工事（3 年計画の 3 年目）
- 南 4 号館屋上防水改修工事
- 北 2 号外壁改修工事（2 年計画の 1 年目）
- 東 2 号館受変電設備更新事業
- 柔剣道場外壁改修工事

外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。

- 富士見会館屋上防水改修工事

- 特高受変電設備更新工事
- 中高等科校舎外壁改修工事（7年計画の2年目）

【戸山キャンパス】

- 戸山図書館外壁改修工事
外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。

【四谷キャンパス】

- 初等科本館外壁改修工事（3年計画の3年目）

そのほか、維持整備対策として実施する工事は、以下のとおりです。

- 目白キャンパス構内幹線道路舗装改修工事（7年計画の2年目）
- 省エネルギー対策としての照明のLED化工事
本院の照明のLED化率は、令和元年度で19.8%です。令和2年度は、3キャンパスの各所において実施を予定しており、6.9%の向上を目指します。

15. 「学習院未来計画 2021」推進募金の更なる充実

【学習院未来計画 2021】10. 学習院未来計画 2021 推進募金の実施（業務戦略渉外部）

業務戦略渉外部では、事業計画期間中の目標額を35億円と定め、毎年の単年度目標額6億円をベースに、新棟建築計画に対する目標額を5億円（令和元年度1億円、令和2、3年度各2億円）加えることとしています。

令和2年度は目標額を8億円とし、従来からの募金活動に加えて新棟建築のための募金活動にも注力し、募金目標額到達に向け、鋭意努力します。

16. 創立150年史編纂に向けての基礎作業

【学習院未来計画 2021】11. 創立150年史編纂に向けての基礎作業（学習院アーカイブズ）

- ① 学習院アーカイブズ所蔵資料のデジタル化の推進ならびにデータベースの更なる向上
学習院アーカイブズは所蔵資料の保護と利用の便宜を図るため、参照する頻度が高く保存状態の悪い資料を優先順位を付けてデジタル化を進めています。令和2年度は戦前期の公文書である「土地建物録」や目録類、戦後の写真類のデジタル化を計画しています。また、150年史編纂に向けて、所蔵資料データベースの利便性の更なる向上への取り組みも進めていきます。
- ② 学内所蔵学習院史資料の調査
初等科には明治期以来の業務文書が多く保管されており、学習院アーカイブズと初等科は平成29年度よりその調査と整理を実施してきました。令和2年度は院内の他の学校も含め引き続き作業を進め、150年史編纂の基礎資料としていきます。
- ③ 創立150年史編纂に向けての体制の検討及び強化
創立150年史編纂の事業を実施するためには、院史資料の調査収集・整理を進めてきた学習院アーカイブズの機能強化が欠かせません。令和2年度より、文書の整理・保存に豊富な経験と専門性を持つ人材を採用し、編纂に向けての体制の強化を図ります。

17. 文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討

【学習院未来計画 2021】 12. アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討

(学習院アーカイブズ)

新東 1 号館への大学図書館機能移転後の現大学図書館建物については、大学史料館、大学学芸員課程事務室、学習院アーカイブズが共同で利用する計画が検討されています。学習院アーカイブズが所蔵している学習院の歴史を示す資料は、新たに設置される収蔵スペースに保管する予定です。収蔵資料の保存と活用のため、必要とする施設設備や保存環境等について、関連部署と連携を図りながら具体案を検討していきます。

学習院未来計画2021/令和2年度事業計画書案 対照表

	学習院未来計画2021	令和2年度事業計画書案
大学	1.教育支援の充実	1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進 2.ラーニング・サポート体制の充実
	2.語学教育を含む教養教育の見直し・再編	3.総合基礎科目見直しの検討
	3.入試改革	4.入学者選抜制度の改革等
	4.国際化の一層の推進	5.世界展開力の強化
	5.学生生活支援の充実	6.キャリア教育と就職活動支援の連携 7.奨学金の拡充と検証
	6.教学マネジメントの強化	8.教学マネジメントの確立とIR機能の充実 9.事務組織の見直し
	7.研究活動の活性化	10.「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型く生命社会学」による「アプローチ～」の推進
	8.地域連携の拡充	11.地域連携の拡充
	9.産学官連携の拡充	12.産学官連携の推進
	10.高大接続改革の推進	13.学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化
	11.スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進	1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進
項目外	14.中長期計画の策定	
女子大学	1.カリキュラム編成の見直しと教育力の強化	1.リベラルアーツ教育を中心とした「教育力」の更なる充実 2.内部質保証システムの強化に向けた外部評価制度の導入 3.単位の実質化のための取組みの強化
	2.国際化の一層の推進	4.留学生の送出しと受入れの一層の強化 5.海外に触れる機会の拡充 6.エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化
	3.高大接続改革に伴う入試改革	7.高大連携と入試改革
	4.企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント(SD)の推進	8.戦略・IR機能の強化
	5.研究・教育環境の向上	9.研究教育環境の向上 10.ジェンダーに係る共通理解の醸成
	6.外部に開かれた文化活動の充実	11.外部に開かれた文化活動の充実
高等科 中等科	1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂	1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討
	2.院内各校との連携強化	2.院内各校との連携強化
	3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討	3.教職員の連携と協力体制の構築、業務の負担軽減
	4.国際化の一層の推進	4.国際化の一層の推進
項目外	5.施設の拡充	
女子 中・高等科	1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂	1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討
	2.院内各校との連携強化	2.院内各校との連携強化
	3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討	3.教員の授業コマ数の検討
	4.広報体制の一層の強化	4.広報体制の一層の強化
	5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応	5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応
項目外	6.キャンパスの環境整備	
初等科	1.学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂	1.新たな学習指導要領の円滑な実施
	2.国際化の一層の推進	2.国際化の一層の推進
	3.授業へのICT機器導入の検討	3.授業へのICT機器導入の検討
	4.クラス主管に加えての学年主管の設置	4.学年主管設置の準備
	5.院内各校との連携強化	5.院内各校との連携強化
	6.創立140周年の取り組み	2017年度をもって達成済み
幼稚園	1.教育要領改訂を見据えた保育内容の充実	1.従来の取組みを活かした形での新教育要領への対応
	2.研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上	2.研究保育と園内外研修の実施
	3.園内の自然環境の充実	3.園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用
	4.院内各校との連携強化	4.院内各校との交流
項目外	5.入試広報の充実	
本部等	1.キャンパスプランの策定と実施	1.キャンパスプランの策定と実施
	2.決裁・稟議等のルールの整理(総合企画部)	4.決裁・稟議等のルールの整理
	3.広報の充実(総合企画部)	5.広報の充実
	4.事務業務システムの更新(総務部)	9.事務業務システムの安定運用
	5.災害対策の更なる強化(総務部)	10.災害発生時の地域との連携、危機管理体制の強化
	6.職員研修の更なる充実(人事部)	11.職員研修の更なる充実
	7.働きやすい環境づくりの推進(人事部)	12.働きやすい環境づくりの推進
	8.学習院未来計画2021の計画実現のための財源確保(財務部)	13.キャンパスプラン実施に向けた財政基盤の確保
	9.各キャンパス構内の維持整備の促進(施設部)	14.各キャンパス構内の維持整備の促進
	10.学習院未来計画2021推進募金の実施(募金部)(※)	15.「学習院未来計画2021」推進募金の更なる充実
	11.創立150年史編纂に向けての基礎作業(学習院アーカイブズ)	16.創立150年史編纂に向けての基礎作業
	12.アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討(学習院アーカイブズ)	17.文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討
項目外	2.創立150周年記念事業計画の検討 3.霞会館記念学習院ミュージアム建築計画の推進 6.三推進(国際化、情報化、一貫教育)事業の更なる促進のための検討 7.各学校の教育・研究環境の整備 8.次期中期計画の策定	

注) 募金部は平成30年4月に業務戦略渉外部に名称変更を行いました。